

職員による自己評価

A環境面

人員配置は医療ケアを必要とする利用者に対しては不十分さを感じる。スペースは十分では無いが、廊下等を活用しスペース確保している。整理工夫が必要。

B児童への支援内容

多職種で連携し、職員間で意見を出し合いながら利用者の良い部分を引き出すような支援をしている。本人、家族の声に耳を傾け、気持ちに寄り添った支援を心掛けている。

C関係機関との連携

学校とは情報共有、連携が出来ているが各学校によって差がある。医療機関との連携は併設のクリニックを通して出来ている。

D保護者への説明責任・信頼関係

支援の内容について送迎時、面談時、連絡帳にて説明する事が出来ている。

E非常対応

年に2回避難訓練を実施している。又、災害用の物品の預かりや緊急時のメール配信について整備している。

保護者による評価

A環境面

スペースや職員配置、バリアフリー化等は評価が高いが、スペースについては実際に見ていないのでわからないという意見もあった。

B児童への支援内容

児童への支援については高い評価だったが放課後児童クラブとの交流や障害がない子どもと活動する機会についてはコロナの影響もあり、出来ていないという評価であった。

C事業所からの情報発信

活動や行事についての発信は出来ているとの評価であったが連絡体制等や業務に関する自己評価についてはわからないという意見もあった。

D非常対応

緊急時の体制やマニュアル、災害時の備え、避難訓練の実施については高い評価であったが避難訓練について実施しているかわからないという意見があった。

事業所内での分析

【共通点】

- ・送迎時や定期的な面談の際にお互いの話も出来ており児童への支援について本人の様子や状態を見ながら保護者と情報共有し、支援が出来ている点。
- ・コロナの影響で地域との交流や保護者会について難しい事はご理解頂いている。

【相違点】

年2回の避難訓練の実施や事業所評価や施設全体の満足度調査の公表をホームページで行っているが周知されていないという点。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・多職種で意見を出し合いながら、子ども一人一人が出来る事、やりたい事を伸ばせるような支援をしている。
- ・医療的ケアがある子どもでも安心して通所する事が出来る。

事業所の改善点

- ・避難訓練実施やホームページに情報掲載時に保護者への周知。
- ・コロナ禍の中での地域交流の方法や保護者会開催の方法、保護者に子どもの様子を知ってもらう方法の検討。

事業所の改善への取り組み

- ・ホームページだけでなく連絡帳やお手紙の活用と送迎時に口頭での伝達を行い、様々な情報の周知を行っていく。
- ・感染対策を行いながら交流等行える方法を保護者含めて検討していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

利用者支援については保護者に理解して頂いている部分も多かったのが今後も継続して行っていく。情報の伝達についてはこちらは伝えたつもりであっても中々、伝わっていないことも多かったのが伝え方、方法という点ではもっと工夫してしっかり行っていかなくてはと感じた。又、コロナ禍の中での支援という事についても事業所としてもっと考えていかなくてはと感じた。

事業所名 _____ 放課後等デイサービスこまち
担当者 _____ 井上 淳